

鳴き声は「キュイキュイ」… かわいさ満点のテンジクネズミに大接近!



愛くるしい見た目をしていてペットとしても大人気のテンジクネズミ。目にしたことがある方も多い動物だと思います。しかし、よく見てみると「あっ!」と思うような特徴を持っています。今回はそんなテンジクネズミの生態について聞いてきました!

(大阪芸術大学短期大学部メディア・芸術学科 狩俣亜依)

意外と知らない! テンジクネズミの生態

まず、テンジクネズミという名前から。これは正式名称で、モルモットという通称の方がなじみ深いかも。寿命は5年〜8年。大きさは800g〜1200gにもなります。ハムスターより大きくウサギより少し小さいくらいです。草食動物なので餌はニンジンや白菜、乾草など野菜を与えているそうです。

天王寺動物園ではテンジクネズミは「キュイキュイ」といった鳴き声で「ミニチュニケーションを図るといってかわい習性があります。一匹よりは集団で身を寄せ合って生活をする方が落ち着くのだとか。また、ケンカもするそうで特にオス同士はケンカが多く、去勢していないオスは個別で飼育するほど。歯を鳴



色、毛並みは様々

らしたり、お尻を振って威嚇をしたり、噛み付いたりします。

3本指の理由

体の特徴で特に驚いたことは、前肢は4本指、後肢は3本指だということです。後肢の指の数が少ないことで、速く走れます。また、テンジクネズミには尻尾がありません。尻尾がない丸いお尻がとてもかわいいです。



天王寺動物園では「イングリッシュモルモット」「アビシニアンモルモット」の二種が飼育されています。この二種の大きな違いは毛並みです。イングリッシュモルモットは毛並みが揃っていてツヤツヤしていますが、アビシニアンモルモットはつむじが沢山あるため毛並みが揃っていない。巻き毛でクルクルしています。同じ品種でも模様や毛の色が違っていて、個性豊かでもかわいいです。

動物の気持ちを大切に!

今回の取材で、「テンジクネズミのかさつじかん」というイベントを見学することができました。天王寺動物園では、動物福祉の観点から動物の気持ちを大切にすることを実施しています。テンジクネズミが飼育されていた「ふれんどしつぷガーデン」では動物を思いやる気持ちを来園者の方にも持つてもらいたいという狙いから、動物に触れるのではなく、距離を置き観察をすることで動物のことを知ってもらうという取り組みを行っているそうです。

私が一番感動したのは、動物

の逃げ場がちゃんと用意されているところでした。イベントの時に参加するかどうかを動物自身が決められるようになっていくのです。実際、イベント途中にテンジクネズミが飼育場に帰っていくところを何回か見かけました。最後に「天王寺動物園のような取り組みをする動物園がもっと増えてくれると嬉しい」と話してくださった飼育担当者さんの言葉が印象的でした。



玉苣を食べるテンジクネズミ。つぶらな瞳がかわいい

編集後記



大阪芸術大学短期大学部
メディア・芸術学科
狩俣 亜依

テンジクネズミは、よく見てみると「なるほど」と気が付く特徴を持っていて、観察するのがとても楽しかったです。また、今回の取材で動物の気持ちを大切にすることの大切さを学びました。みなさんもぜひテンジクネズミを観察してみてください。(狩俣亜依)